

●8月6日広島、8月9日長崎に原爆が落とされて78年目を迎えました

みなさんはどのようにしてこの日を迎えられましたか。京田辺市草内小学校に平和の塔があります。これは草内老人クラブの皆さんが広島を訪問されたお礼に原爆瓦が届けられたので、それを平和の塔として老人会が維持管理され8月6日などに鐘を鳴らし追悼されてきています。また京田辺市の市役所前には当時の議員が広島から届いた原爆瓦を取めた記念碑が作られています。この碑の前で7時40分頃から数十人の皆さんが平和の集いをされ、投下された8時15分にはラジオからの平和の鐘とともに黙とうをされました。この集いは53回目になるそうです。また市役所前のコミュニティホールで京田辺市平和展が8月11日まで開催されています。

●京の七夕への協力

今年は吉祥院、京都錦市場、丹波橋、新京極の各商店街に加えて、JR西日本と京都水族館などへ七夕の笹を届けました。特に今年は猛暑が続き竹の切り出し作業は厳しいものでした。納品日の午前中に切り出し、笹が縮み始める前の元気なうちに納品をしようとの皆さんの考えから、新鮮な竹を切って運んでいただき、各先方さんから大変喜んでいただいたようです。暑い中ご苦労様でした。

●京都いきものフェス！2023 10月8日（日）9日（祝）に府立植物園で開催されます

京都で今年初めて「いきもの展」が開催されます。大阪では長居の大阪市立自然史博物館で素晴らしい取り組みが行われて沢山の出店がされ、自然環境問題に取り組んでいて、他府県からも出展されるすごい催しがされてきました。里山の会も呼びかけを頂いで数回出店をさせてもらってきました。京都ではこれまでこうした取組が全くなされてきませんでした。この4月に京都府と京都市が協調して生物多様性センターが発足しましたので、今年始めて府立植物園をメイン会場にして「きょうといきものフェス！2023」が開催されることになりまして、少しは他府県と肩を並べられるようになってきたのではないのでしょうか。

初めての開催で、願ってきた催しですので里山の会としては①ブース展示と②ワークショップ（松かさツリーと竹蛇籠製作）に、出来れば③活動発表に参加していこうかと9日の事務局会議で話し合いました。松かさツリーには、ナンキンハゼの実の色付け（1000個）、土台に柱建てと松かさの固定する準備作業が必要です。また竹蛇籠づくりは7mの竹材とそれを割っておく素材づくりが必要です。こうした準備作業の日取りは順次お知らせさせていただきますのでご協力をお願いいたします。作業場所は草内倉庫の広場を予定しています。子供たちの手で可能な作業ですから、出来るだけ子ども達に多く手伝っていただきたいと願っています。

里山の会はこれまで木津川の植物標本を管理するところを強く求めてきましたが、先日の夜の生き物調べて講師を努めていただきました桜谷先生が、集まってきた昆虫を持ち帰り里山農園の昆虫標本として保存すべきではないかと提案をいただきました。事務局会議でも、標本箱の保管場をどこにすべきか、高価な物を買えるのか、これからどのように利用していくのか等様々な意見がありました。その場では管理能力と保管場所に課題があるから必要だとはなりません。しかし後日の事務局会議で検討の結果、保管場所を確保できる見通しが立って、標本作成を先生にお世話になることになりました。

●災害は忘れた頃にやってくると伝えられてきましたが、70年前の1953年8月14日未明に南山城災害が発生しました。私の中学2年生の時でした。死者・行方不明者数を調べましたが大変な災害でした

1953年 6月23日~6月30日	西日本豪雨災害	1013名
7月16日~7月18日	有田川、日高川災害	1024名
8月14日~8月15日	南山城災害	430名
9月22日~9月26日	台風13号災害 宇治川決壊	478名
1954年	洞爺丸台風 1761名	1959年 伊勢台風 5098名
1961年	第2室戸台風 202名	

1953年にはこんなに災害が全国で発生しました。

●深泥池 課題と対策

夏休み底生動物調査が行われます

深泥池でトンボの種類が増えたことは外来魚駆除の効果を表していますが、ギンヤンマやイトトンボは、むしろ減少しています。これらは、近年オオバナノイトタヌキモやジュンサイが繁茂したため、有機物が増えて、水中の残存酸素が減っているためと考えられます。特に西南開水域の水深20cmの池底では溶存酸素濃度が0%となり底生動物は岸沿いや水面近くでしか生きられなくなっています。深泥池生物群集を保全するためには、水生植物の間引きや泥抜きによって有機物を減らす必要があります。

そのための夏休み底生動物調査が8月11日(金)12時~15時に開かれ、里山の会でも何名か参加することになっています。

2023年 夏休み底生動物調査のお知らせ

主催：深泥池水生生物研究会・深泥池を美しくする会・深泥池自然観察会
共催：自然環境保全京都府ネットワーク

はじめに

深泥池では1970-80年代にオオクチバスとブルーギルが侵入した結果、在来動物の多くが絶滅や減少してしまいました。このため、京都市文化財保護課では、1998年からオオクチバスとブルーギルの駆除事業を実施しています。深泥池水生生物研究会ではその効果を知るために、毎年夏休みに市民参加による底生動物調査を行っており、今年で25年目となります。その間、外来魚駆除の効果が見られた一方で、植生管理や泥抜きなど新たな対策が必要となることがわかってきました。その成果は、ジュンサイ間引き事業に繋がっています。

参加方法

調査日：2023年8月11日(金)12:00-15:00
 集合場所：深泥池南岸公園前 12:00集合
 採集調査：12:20-13:00 深泥池南岸~東岸沿い
 底生動物種リスト作り：13:00-15:00
 会場：深泥池会館から深泥池南岸公園に変更
 参加：体調が良好な方は誰でも参加可。
 参加費：無料。小学生以下は保護者同伴のこと。
 持ち物：熱中症防止のため着帽の上、十分な飲み物をご持参の上、各自水分補給を心がけてください。
 問合せ：田中啓介(TEL:090-7412-7050; e-mail: tanakakeisuke44@yahoo.co.jp)まで。











これまでにわかったこと

2021年までは、40種群以上の動物が採集されていましたが、2022年は36種群に減少しました。経年変化から、一旦回復していた種多様性が最近7年間は減少傾向にあることがわかります。例えばコバンムシ、コムシムシ属、コブゲンゴロウなどは個体数が増えています。ギンヤンマ、モノサシトンボ、アオモンイトトンボ、ムネカクビケラ属のように採れなくなった種も見られます。水生植物の繁茂により、有機物や泥が堆積して溶存酸素が減っていることが原因です。



